

日本企業論 Analysis of Japanese Business Firms	(教員名) 有賀 敏之	
アジア・ビジネス研究分野 中核科目 ≪2015年度以前入学生は、都市ビジネス専攻 展開科目≫	講義科目	選択
	1 単位	2018 年度・前期
I 科目の主題 本講義では主たる対象を日本企業に絞って、古代以来今日に至るまでに存在した企業に関する膨大な知見に基づいて、制度的・理論的な考察を行う。とりわけアジア諸国企業との比較において、日本企業ひいては日本の資本制固有の特徴を明らかにする。今日の韓国財閥にも通ずるオーナー制の旧財閥が、いかにして戦後の企業集団に転じ、また多国籍企業化を遂げることができたのか、そもそも「財閥」とは何か、現代日本の企業グループはどこへ向かうのか、といった論点につき、一貫したパースペクティブの下に解明する。		
II 授業の到達目標 受講者の個別企業・企業グループに関する知識を涵養するとともに、日本企業の動向に関する展望を培うことを主眼とする。		
III 授業内容・授業計画		
第 I 部 序論	第 1 回	企業と企業グループの理論
第 II 部 歴史的考察	第 2 回	古代・中世の企業
	第 3 回	大財閥の歴史的起源 ①三井
	第 4 回	大財閥の歴史的起源 ②住友
	第 5 回	大財閥の歴史的起源 ③三菱
	第 6 回	明治維新と資本制の制度化
	第 7 回	新興コンツェルンの概観 ①日産
	第 8 回	新興コンツェルンの概観 ②日産以外の他社
	第 9 回	コンツェルンと企業グループ
第 III 部 戦後の変容	第 10 回	資本自由化と株式相互持ち合い
	第 11 回	六大企業集団と独立系企業グループ
	第 12 回	日本企業の多国籍企業化
第 IV 部 今日の諸問題	第 13 回	系列の解体と持ち株会社解禁
	第 14 回	アジア各国の企業グループ
	第 15 回	まとめと討論
IV 事前・事後の学習内容 とりたてて予習は不要であるが、授業効果を高めるには、次回の授業までの間に一度ノートを読み直し、関連して自分でも検索等を通じたりサーチを行い、授業内容を膨らませてみることであろう。		
V 評価方法 期末のレポート (40 点)、授業時間内に課するペーパーを含む平常点 (60 点)。 なお留学生に対しては、上記に代えて別の評価方法を適用する場合がある。		
VI 受講生へのコメント 特になし		
VII 教材 参考書 : 有賀著『グローバル化の政治経済学』(同文館 初版 1999 年, 第三版第二刷 2016 年)		